

New

白砂による「いなげの浜」の養浜工事

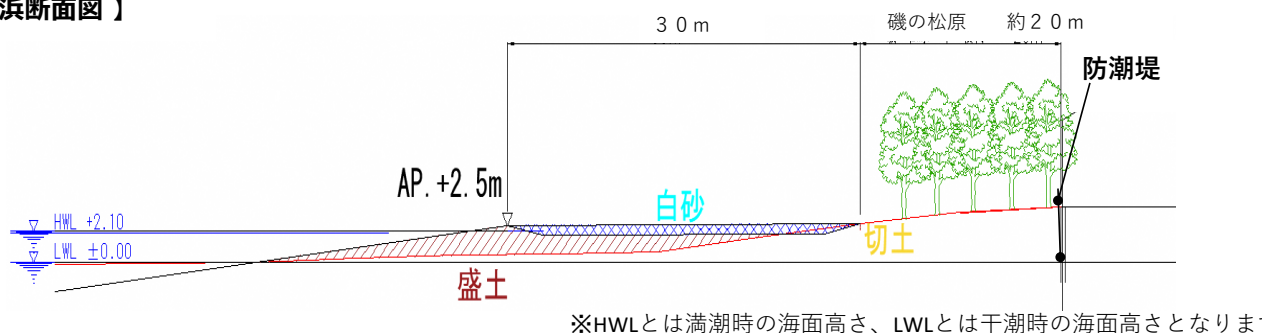
いなげの浜は、昭和51年にオープンし、昭和58年、平成10～11年にその維持を目的に養浜工事（砂の補充）を行ってきました。今回、稲毛海浜公園施設リニューアル整備・運営事業の一環として、より魅力的で賑わいのある公園とするため、白い砂浜に改修する、という事業提案があり、「白い砂」を使った養浜工事を行うこととなりました。



【工事概要】

- ・基盤造成工 : いなげの浜の砂を均一にするため、蘇我側に堆積している約26,000m³の砂を切土し浸食が進んでいる検見川側に盛り土。
- ・白砂搬入敷均し : 基盤造成後に、満潮時でも海面にならない範囲の砂浜の表層に約25,000m³の白砂を敷き均し。 全長1,200m×幅30m×厚さ0.7m

【養浜断面図】



【白砂について】

今回使用した白砂は、西オーストラリア州アルバーニー産の山砂で、ガラスの原材料としても使用される無機物の鉱物です。石英（二酸化ケイ素）の純度が高く99.5%を占めており、真っ白でサラサラとした手触りが特徴です。山砂であるため海の生物を含まず、採掘後の水による洗浄や遠心力を利用した選鉱などによって生物の混入を防止しており、環境への影響も少ないものです。

また、既存のいなげの浜の砂と比べ、砂の粒子が大きく硬いため飛散や流出がしにくくなるものと考えられます。同州の白砂は、保育園の砂場やビーチバレーコート、イベント等で使用されているほか、和歌山県白良浜でも養浜に使った実績があり、その美しさは全国的にも有名です。

Next

今後、海へ延びるウッドデッキやビーチハウス等の設置を予定しており、飛砂防止対策も併せて実施します。